

国民健康保険 久万高原町立病院
(久万高原町立病院新病院改革プラン一部変更)

平成 29 年 3 月 策定
令和 5 年 6 月 改訂

1. 基本情報

| | | |
|------------------|---|--|
| 医療機関名称 | 国民健康保険 久万高原町立病院 | |
| 開設者 | 久万高原町長 河野 忠康 | |
| 開設年月日 | 平成 16 年8月1日 | |
| 所在地 | 愛媛県上浮穴郡久万高原町久万 65 番地 | |
| 許可病床数 (稼働病床数) | 77床 | 一般病床 47 床(45 床)・・・急性期 療養病床 30 床(30 床)・・・慢性期 |
| 標榜診療科目 | 内科、外科、整形外科、心療内科、精神科、眼科、小児科、 リハビリテーション科 | |
| 職員数 | 医 師 常勤(6 名)、非常勤(9 名) ※常勤換算 6.56 人(常勤医1名は併設の町立高齢者福祉施設長 兼任のため 0.5 人換算) 看護師 40 名(一般病棟・療養病棟・外来) 看護補助 11 名(一般病棟・療養病棟) 専門職 25 名 事務職 6 名 | |

令和5年5月1日現在

2. 病院の現状

久万高原町立病院は、愛媛県内の市町で最大の診療圏を抱える山間へき地の公立病院であり、外来診療機能や急性期から回復期及び慢性期の患者を対象にした病棟機能と、救急医療体制を備えた病院として運営している。また、老人福祉施設(100床)の嘱託医や学校医を担当するほか、健康予防と疾病の早期発見のための検診事業にも取り組むなど、久万高原町民を中心とした地域包括ケアシステムの推進を図っている。

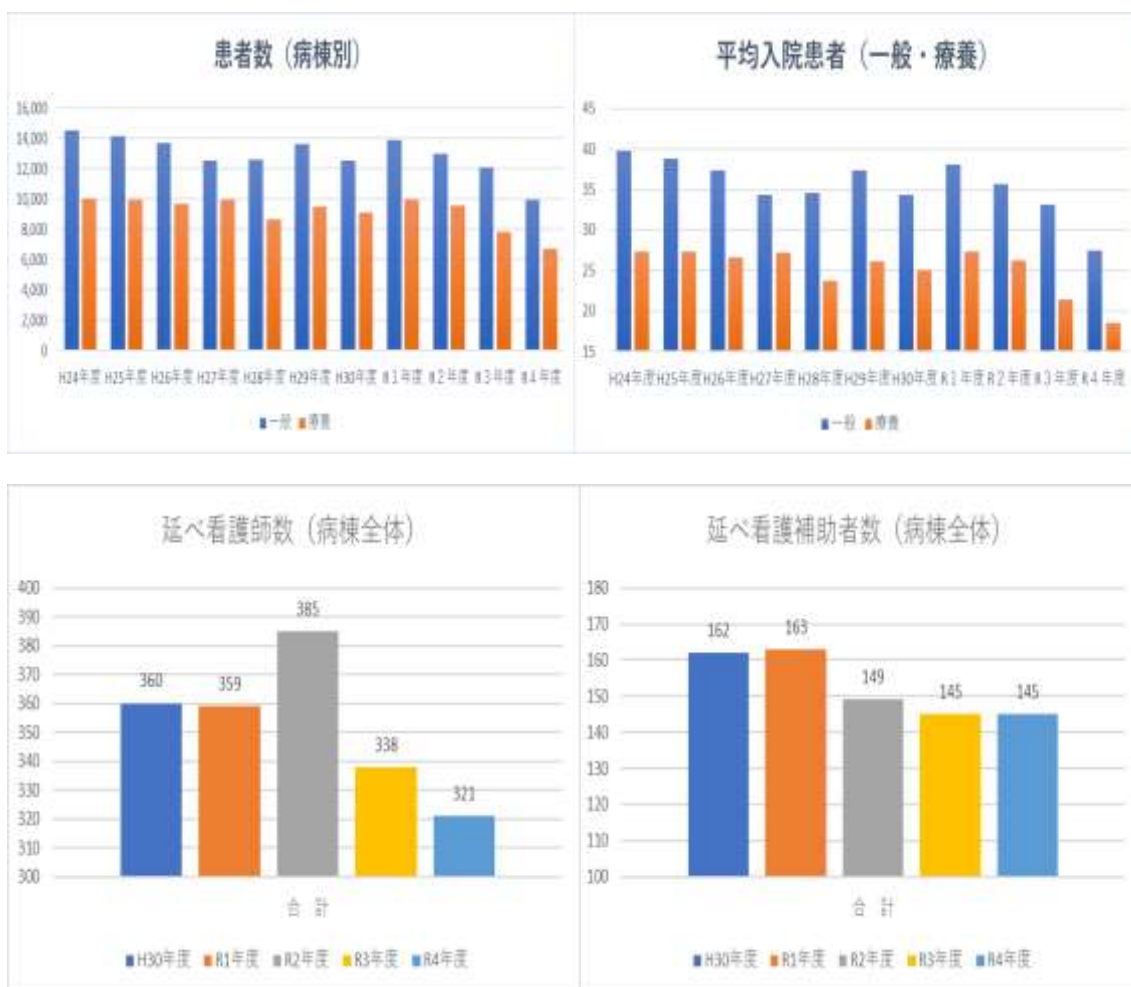
外来診療機能としては、主体とする内科・外科のほかに地域住民のニーズに応えるべく、整形外科や心療内科、眼科を外部から医師を招くことで診療している。また、病棟機能としては、一般病棟で10対1の看護体制により急性期から回復期を担い、療養病棟で療養病棟入院基本料1の体制により慢性期を担っている。(療養病棟においては、介護療養型医療施設が令和5年度末をもって廃止となることから、介護医療院への転用を含め、運営の方向性を検討していたが、看護職員・看護補助者の減員も続いていたことから、病院の運営体制が従来同様に行っていくことは厳しい状況となっていた。また介護保険適用入院患者数の減少もあったことから、令和4年度末をもって介護療養型医療施設の指定辞退の届出を行う運びとなった。)

3. 現状における課題

当院は、外来診療と一般病棟(47床)及び療養病棟(30床)の2病棟による入院診療体制による、院内における役割の明確化とともに、地域医療の確保と地域住民の健康と生命を守ってきたが、看護職員の減員による看護体制確保が困難な状況となってきた。

入院患者の推移については、過去10年を見ると平成28年度まで減少傾向にあったが、平成29年度から令和2年度にかけて増加傾向に転じた。しかし、令和3年度には大きく減少し、令和4年度においては更に大きな減少となった。

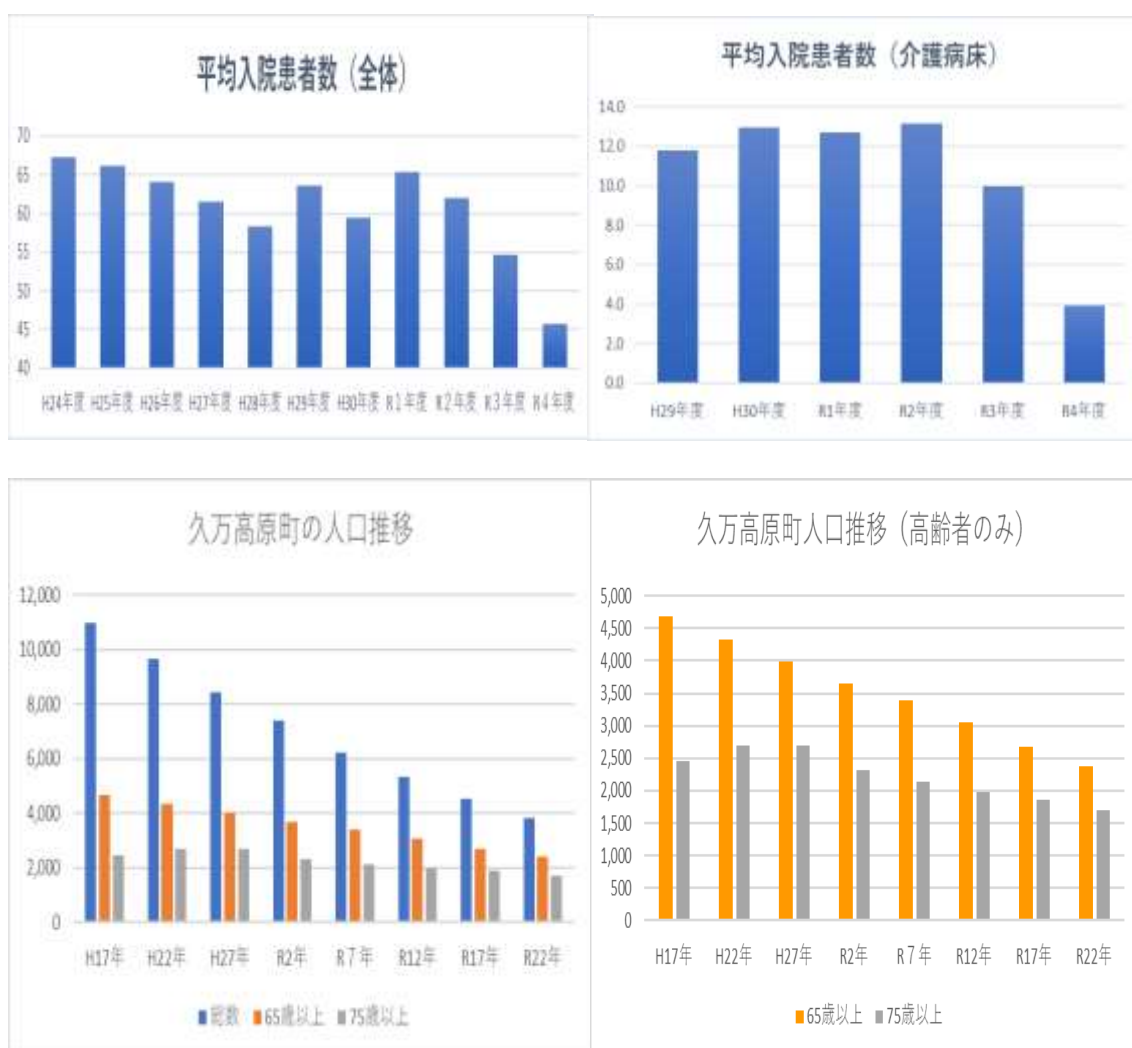
令和3年度からの入院患者減少の理由としては、令和2年度から3年度にかけて看護師の退職や休職者が多かったためと考察される。看護体制の維持のため職員の配置換え等を模索したが、どの部署においても余裕はなく、勤務歴の浅い職員が多いため勤務割に苦慮する状態が続いている。また、勤務体制の検討においては、看護補助者の減少もあり、療養病棟では、2名の夜勤体制を確保するにあたって、看護補助者の代わりに看護師が夜勤に入る必要も生じており、最低限の人員で運営せざるを得ない状況となっているなど、看護職員の不足が大きな課題となっている。



4. 今後の方針・計画

看護体制の安定確保を行いたいが、看護師の大幅な増員の見込みはなく、2病棟体制の継続が困難な状況となっている。そのため、病棟を再編し一般病棟のみの60床1病棟とし人員をまとめることで、看護体制確保の改善を図り、入院患者への医療・看護の提供を継続していきたいと考える。

入院患者の推移は、2病棟合わせ平均して約60床から65床であるが、介護療養型医療施設として受け入れていた介護保険による入院患者が平均約13人であったことから、当該患者を除いた場合、60床以内の運用が可能と考える。また、本町における人口推移においても今後、全人口及び高齢者人口とも減少が見込まれており、入院需要は減少するものと推測される。なお、看護体制は看護供給と職員負担の面からも10対1を継続し、病床稼働率は88%（平均53人）を目安とするが、看護職員の増加が図れた際は、93%以上を目指す。



※人口は、総務省 国勢調査と国立社会保障・人口問題研究所 平成30年(2018)推計より

この場合、病床機能報告においては急性期病床の位置づけとなり、急性期が 13 床増加することとなるため、愛媛県の地域医療構想に逆行することとなる。しかし、中山間地域であり、高齢化率が高く急変患者も多い久万高原町においては、速やかな救急受入体制を当院で確保する必要があり、一般病床の存続は望まれる。そのため、実際の運用においては、当該病床では急性期だけでなく回復期、患者状態に応じた慢性期の受け入れを継続していく予定である。

また、病床数は 17 床減少することになるが、これまで以上に地域の高齢者施設との連携を図るとともに、訪問診療や訪問看護を活用し在宅医療への転換に努めていくことで、地域医療の存続を図ることとする。

